



2021年 9月 人権一口講座



「東京オリンピック出場を叶えた池江選手の思い」

オリンピック開催の1年5か月前に当時日本を牽引するトップスイマーであった池江璃花子さんは「白血病」と診断されました。それは「オリンピック出場は無理である」と告げられたも同然のことでした。

「東京オリンピックという夢」と「水泳選手生命が絶たれるかも…」と考えた時、競技という水泳に対して懸命に彼女は向き合えなくなってしまうたそうです。そのような中で、池江さんは様々なことを考えるようになったそうです。「あたりまえ」として日常やってきたことが出来なくなり、普通と思っていたこと「泳ぐ」ということが実は「すごく素晴らしいこと」であったことに気付かされたと言っていました。

病気になってから後、池江さんは「普通である」と考えていたことが出来ない状況の人、「自分と同じ病気である人のこと」、「苦難を悲観せず前向きに生きている人のこと」等を考えるようになったとのことでした。

病氣と闘う人の存在は彼女を変えていき、今、自分の置かれている状況を悲観せず普通に生活し、たまたま食事を作ってみたり等の「あたりまえ」のことは行うことが、最も大事なことで感じ始めるのです。そして、競技の結果だけではなく、皆に自分の存在で勇気を与えたいと考えようになったそうです。トップを維持すること等、心のうちにあった重みも軽減され、孤高だった気持ちも消え自分には独りではないのだという気持ちに達したことにより、何事にも集中出来るようになっていったとのことでした。

そして現代の医学の力と本人の努力により、水泳の競技者として復帰し東京オリンピック女子競泳リレー代表選手として今夏出場を果たし活躍されました。

池江さんの活躍は、闘病中の方々にとっての希望の光だったのでないでしょうか。

今までと違った「新生・池江璃花子」選手の姿は、多くの国民の目に焼き付いたことと思います。そんな彼女は、3年後のパリオリンピックを目指すすでに動き始めています。新生池江璃花子選手を、一緒に見守り応援していきましょー！

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」九月号より)



「ありがとう」の言葉は
短いメッセージ いつも誰かの心を温めているよ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 東町中学校 三年 平島彩優さんの作品より